は1946年から五十余年にわたる岡氏の行動記録で，日付，場所，主な観察植物が列記されている．最後に略歴，業績目録がついている．岡氏は1941年東大林学科を卒業後，台湾総督府林業試験場に職を得，南方雄飛を志したが，敗戦によって帰国，以後は山口県にあって研究調査に励まれた．山口県植物誌（1972）は，標本に基づくフロラとしては滋賀県植物誌（北村四郎 1968）に続くもので，今日の地域植物誌の先駆をなしたものである．本書によって一人の研究者の生涯がまとまった形で残され，後の博物史研究の資料として役立つだろう．頒布についての連絡先は次のとおり．〒753-[redacted] 山口市[redacted]（Tel.[redacted]）[redacted]　　（金井弘夫）

□茂木　透（写真），大田和夫ほか（解説）：**樹に咲く花　離弁花 II**　719 pp. 2000．山と渓谷社．￥3,600.

離弁花 I の続編でスズカケノキ科，マンサク科からウコギ科までが載せられている．多数の部分写真があって，今までの写真集に見られない内容のものである．合弁花類，単子葉類，裸子植物の第 3 巻も近く出版の予定という．　　（山崎　敬）

□石川茂雄：**種子の本**　79 pp. 2000．石川茂雄図鑑刊行委員会．￥2,800.

先に出版された「日本植物種子写真図鑑」（1994）が学術を目的とした内容なのにたいし，これは種子の美しさを表現しようと試みたものである．イヌタデ，ハコベ，ドクダミ，ボタンヅル，シソなど平地でよく見かけるものや，シラネアオイ，シラカバ，ヤマジノホトトギスなど山地のものも含め，36種の種子が選ばれ，それぞれの持つ美しさを表現しようと努力している．その辺に見かける雑草が，これほどの美しさを持っていたのかと感心させられる．刊行委員会の住所：〒264-[redacted] 千葉市[redacted]　　（山崎　敬）

□小山鐵夫（監）・水島うらら（脚注）：**牧野富太郎著・植物一家言**　247 pp. 2000．北隆館．￥2,500.

すでに知られている本書を現代文に書換えて，多くの人達に読んでもらおうという企画である．やってみたら書換えはまだしも，博引旁証の古典の辞句はそれだけでは通ぜず，たくさんの注釈をつけねばならないことになった．とくに，原本自体が急いで刊行され，校正に十分時間をかける間がなかったという事情から，誤字脱字が多く，その詮索にも手間ひまがかかったようだ．そのほとんどの作業は，水島氏の手になるとのことである．こういう「古典」を人々にわかり易く…という趣旨は歓迎だが，出版社はもう少し落ちついて作業してほしい．今回も校正が不十分だったようで，配付された本には40件を超える正誤表がついてきた．それと，こういう本に索引がないというのは，出版企画として考えものである．　　（金井弘夫）